

総合戦略 成果と今後の取組

基本的戦略1 「里都まちブランド・里都まち「耕業」による地域経済活性化戦略」

【達成度の説明】

- A：目標値を達成済み又は達成見込み
 B：目標値達成が困難
 C：その他

＜基本目標＞

中井町には、豊かな自然環境の中で農業が営まれ、環境と調和した工業団地がある。この農業と町民のアイデアやグリーンテクなかい等に進出する企業等の力を連携させ地域の経済力を向上させる。

■ 数値目標

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
新規就農者数	4戸	10戸	13戸	A	R1	
新規起業者数	0社	5社	26社	A	R1	

【プロジェクト1】里都まちブランドプロジェクト

- 地元の農産物を特産品としてブランド化し、ブランド化した地元特産品の全国展開に向けた流通販路を確保し、マーケットを拡大する。

里都まちブランド特産品開発事業

農商工・町民が連携して、町内の農産物等を活用した特産品を企業・大学と連携して創出するとともに、「里都まちブランド」として認定するしくみを構築し、商品化を図る。

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
ブランド特産品認定品目数	0品目	10品目	12品目	A	R1	

成果） ◆ブランド認証制度を構築し、「ブランド開発補助金」「事業者研修会」「町外イベント等での販売実証」などの取組により事業者を支援することで、これまで十分に売り出せていなかった地域資源を掘り起こし、町内外にアピールをしていける「なかいの逸品 太鼓判」が誕生した。
 ◆ブランド部会長による講演会や店舗での事業者へのアドバイスなど、外部の専門家に多様な場面で参画していただき、魅力的な商品を生み出すための効果的な機会を創出した。

今後） ◆ブランド開発支援制度を活用したが、認証まで至っていない商品のブラッシュアップ
 ⇒事業者に対するヒアリングを通じて、課題を洗い出し、課題解決に向けた提案や支援を継続して、認証基準を満たす商品へとブラッシュアップを図っていく。引き続き、熱意のある事業者を後押ししていく。

里都まちブランド流通マーケティング事業						
里都まちブランドの、なかい里都まちC A F Eなどでの販売を皮切りに、全国展開に向けた流通販路を確保し、新しいマーケットの開拓・ビジネス展開を目指す。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
ブランド販売施設数	0施設	3施設	3施設	A	R1	
成果） ◆全てのブランド認証品をなかい里都まちC A F Eで販売することにより、より多くの方に購入機会を提供できた。交流拠点の魅力アップに繋がり、ブランド認証品の売れ行きも好調である。 ◆ブランド認証品は、なかい里都まちC A F E以外にも県内の各店舗や各事業所での販売、ふるさと納税の返礼品で活用している。加えて、町外イベントや地元企業のイベントなどに出品することで、ブランド認証品の購入機会を創出した。 今後） ◆全国展開に向けたさらなる販路の開拓・確保 ⇒県内各地の店舗への営業や商談により、店舗で取扱ってもらえるブランド品が増え、駐車場でのP R販売や催事でのマルシェ開催のチャンスも得ているため、販路拡大に向けた具体的な活動を引き続き積極的に行っていく。						

【プロジェクト2】里都まち「耕業」プロジェクト

- 町内外の若者・シニア層を対象とした新規就農希望者を支援する。また、企業、金融機関等と連携して起業、創業、在宅ワーク等に対する支援を行う。

「起農・創農者」支援事業						
農業の担い手の確保・育成を図るため、作業小屋の提供とともに農業機械の貸し出しや営農指導等の支援を行う。 また、遊休農地等を活用し、農家が指導しながら新規就農希望者への野菜、果樹、酪農、花卉等の農業体験を実施する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
新規就農者数	4戸	10戸	13戸	A	R1	
成果） ◆「農業体験」「収穫体験」「ふれあい農園」により、農業に触れ合う機会を創出した。新規就農者に対しては、補助制度の紹介、農業委員による相談機会の創出、新規就農者同士の触れ合いの場の提供等により支援した。 ◆民間企業による農業機械の貸出が行われている。県やJ Aなどの民間企業とも連携して、就農者に営農指導等のフォローを継続実施した。 今後） ◆新規就農後、安定的に農業を営めるようにするためのフォロー ⇒活用できる制度や取組を紹介しながら、悩みを一人で抱えず、相談し合えるネットワークの構築に取り組んでいく。 ◆町外で農業に興味のある方を中井町に呼び込む ⇒中井町で農業を営む生活がイメージできるように、各種取組の情報発信を広くかつ具体的に行っていく。移住相談ブース等に引き続き出展し、就農希望者に当町の情報を継続的に提供し、関係が途切れないようにしていく。						

起業・NPO等設立支援事業						
起業、創業等希望者に対し、専門家による起業セミナーを、地元企業と連携して継続的に開催する。 また、町内の空き家等を活用した事務所や店舗の開設を支援する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
新規起業家数	0社	5社	26社	A	R1	
成果） ◆なかい里都まちC A F Eの整備や里都まちブランド特産品開発事業を展開していく中で、事業者の掘り起こしを行い、多数の起業家が誕生した。 ◆足柄上商工会により、定期的に起業セミナー等が開催され、創業支援を行った。 ◆民間のネットワークを通じて、空き家を活用した事業所が誕生した。 今後） ◆空き家を活用した事業所や店舗の開設の促進 ⇒空き家バンクによる空き家の有効活用が十分に進んでおらず、引き続き空き家の所有者に空き家バンクの紹介と空き家の有効活用について考えるきっかけづくりを行い、空き家を活用した事業所や店舗の開設促進を目指していく。また、地域住民のネットワークにより空き家の紹介が行われている事例もあり、民間のそのような動きと連動しながら、情報を収集し提供していく。						

基本的戦略2「里都まちスポーツ・情報の駅による交流促進戦略」

＜基本目標＞

里山などの自然と美しい景観の中でスポーツができる中井中央公園、ジョギングや散策ができるネットワーク、子どもから高齢者まで楽しめる公園は町の財産である。町で暮らす住民はすべて中井の宝である。この財産や宝をいかして企業や研究機関と町民が連携して交流人口と定住人口の増加を促進する。

■ 数値目標

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
交流人口	150,000人	200,000人	202,763人	A	R1	
転入者数	384人	440人	360人	B	R1	H28:386人 H29:355人 H30:313人

【プロジェクト1】里都まちスポーツ・プチツーリズムプロジェクト

- 中井町特有のスポーツ環境をいかした里都まちスポーツの展開により、交流人口の増加を目指す。さらに、スポーツをする・見る・味わう・支えることなどによる交流をプチツーリズムとして展開する。
- 「未病を改善する」県西地域活性化プロジェクトとの連携により、地域活性化・観光振興に取り組む。
- 誰でもスポーツが楽しめる「健康増進のまち」として中井町のまちづくりを進め、PRしていく。

里都まちスポーツ交流人口増加事業

中井町特有のスポーツ環境をいかし、ジョギングコースの整備、交流試合、スポーツ関連イベント、ゴルフ場の活用などの取組を行い、町内外の住民・企業・大学の交流を促進する。
さらに、近隣大学・中井中央公園指定管理者等によるスポーツ教室の開催、練習場の提供によりスポーツ交流を促進する。

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
スポーツ関連イベント参加者数	750人／年	1,500人／年	1,896人	A	R1	

成果） ◆「ノルディック・ウォーク教室とイベント」「キッズサイクルフェスティバル」「ファミリースポーツデイ」「テニスのつどい」などの新規事業を実施し、中井町の特徴をいかした誰でも楽しめるスポーツ関連イベントを創出した。
◆里都まち交流拠点（中井中央公園）を会場として新規事業を実施し、交流拠点の機能を十分に発揮した。また、スポーツ関連イベントを実施する際に、ブランドマルシェを同時開催した。加えて、プロモーショングッズのPR等による中井町への愛着の醸成を図る取組も同時に行い、様々なプロジェクトが連携した取組を展開できた。

今後） ◆近隣大学との連携
⇒イベントの際に、学生ボランティアを積極的に活用することで、学生がまちづくりに参加する機会をつくった。一方で、スポーツイベントの際に、学生との連携について調整したが、実現できなかった。近隣大学を含めた学生の参画が活発になるように、引き続き取り組んでいく。

里都まちスポーツ・プチツーリズム事業						
企業・大学との連携による健康や体力向上の「見える化」の実施や、「未病を改善する」県西地域活性化プロジェクトとの連携による、おもてなし型スポーツツーリズム、四季折々の里山の自然に触れるレクリエーション型スポーツツーリズムを実施する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
未病センター利用者数	0人	1,000人／年	520人	B	R1	H29:410人 H30:390人
成果） ◆平成28年3月から「未病センター・なかい健康づくりステーション」として、健康づくり・体力づくりの活動を促進した。日頃の声掛け、町内の施設や関係機関を活用した周知、町内自治会に出向いてのPR、県と連携した事業の実施などにより、未病センターの利用者数増加に向けて取り組んだ。また、未病センターでのイベント時に、企業によるプログラムを取り入れ連携した。 ◆なかい里都まちC A F Eを県の「未病いやしの里の駅」に登録し、県西地域の回遊性の向上に寄与した。 ◆県西地域活性化プロジェクトの一環で、未病に関する大学からの提案事業を募集し支援する「県西地域大学連携事業」を実施することで、学生を主体としながら、地域の企業や住民とも連携した取組を展開した。また、県西地域の観光施設や「未病いやしの里の駅」などを回るスタンプラリーを実施し、体を動かしながら地域の魅力を発見する取組を実施した。 今後） ◆「未病センター・なかい健康づくりステーション」の利用促進 ⇒利用促進に向けた取組は継続。広域的な取組等とも連携し、施設の認知度向上から利用促進を図る。						

里都まちスポーツのまち事業						
子どもから高齢者までの幅広いスポーツ振興をつうじて、「健康で快適なまち」、合宿所や休憩所を提供するなど企業と連携したアスリートとの交流や生涯スポーツの促進など、町なかで日常的にスポーツが実施されている、誰でもスポーツが楽しめる「健康増進のまち」として中井町のまちづくりを進め、PRしていく。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
週1回以上のスポーツ実施率	25%	50%	29.5%	B	R1	実績値は町民アンケートより算出
成果） ◆既存のスポーツ関連事業の実施に加え、誰でも気軽にできる「ノルディック・ウォーク」の推進や「ファミリースポーツデー」の開催などの新しい取組により、スポーツを楽しめる機会が増加した。 ◆総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、前身組織の「里都まちぷらっとスポーツ」が誕生し、町民主導で定期的にプレ事業を行った。 ◆「なかい健康スポ・レク祭」で、当町出身のプロフットサル選手によるサッカー教室を開催し、アスリートとの交流の機会を創出した。 今後） ◆スポーツ関連事業の継続と「里都まちぷらっとスポーツ」の活動の促進 ⇒新たに開始したスポーツ関連事業を継続するとともに、「里都まちぷらっとスポーツ」の活動が定期的に行われ、活動の幅が広がっていくように支援をし、引き続き誰でもスポーツを楽しめる機会の創出に取り組んでいく。なお、当町ではスポーツに該当する活動を幅広く捉え、気軽にスポーツができる環境づくりを進めており、身近にスポーツを感じられるように、町民等の意識改革を図る。						

【プロジェクト2】里都まち情報の駅プロジェクト

- 町内の拠点にWi-Fiスポットを設置し、観光・スポーツなどの交流に活用する。
また、里都まちブランド・スポーツなどの地域情報を発信する情報コンテンツの開発を支援する。
- 情報インフラの整備により、在宅勤務や週末移住などのライフスタイルを提案し定住促進につなげる。

W i - F i スポット設置事業						
町内に整備したケーブルテレビ網を利用し、いつでもだれでも手軽に超高速ネットワークにアクセスできる環境を整備することを目的に役場庁舎をはじめとする町内の拠点にWi-Fiスポットを設置する。この整備により、町民をはじめ来町される観光客などの利便性向上を図る。 また、Wi-Fiスポットは、災害時の通信手段としても活用できるものとする。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
Wi-Fiスポット設置数	0か所	9か所	3か所	B	R1	
成果） ◆平成30年6月から7月にかけて「なかい里都まちC A F E」「中井町役場」「井ノ口公民館」の3か所にW i - F i スポットを設置した。 ◆W i - F i が利用できることで、各施設の利便性が向上し、特に「なかい里都まちC A F E」の施設の満足度に貢献したと考えられる。 今後） ◆W i - F i スポット増設に向けた検討 ⇒平成30年度と令和元年度の一日当たりの平均利用者数を比較すると、3～4割程度増加している。「中井町役場」の利用率が最も高く、多いときには、一日当たりの平均利用者数が23人程度。続いて、「なかい里都まちC A F E」が10人程度で、「井ノ口公民館」が3人程度となっており、施設によって利用者数の差が大きい。当初設置を検討していた小学校や中学校等にW i - F i スポットを新設するかは、設置費や維持費、既に設置した施設の利用者数の増加率等を総合的に勘案して検討していく。						

情報コンテンツ等開発支援事業						
企業や大学等の協力を得ながら、里都まちブランド・スポーツなどの地域情報を発信する情報コンテンツの開発を支援する。 情報の更新は、町内のNPO団体が担うなど運営体制を視野に入れた事業展開を図る。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
情報コンテンツ閲覧回数	0回	50,000回（累計）	37,996回	A	R1	
成果） ◆里都まち交流拠点や町の魅力を発信するコンテンツとして、民間事業者の協力を得ながら、なかい里都まちC A F Eのホームページを開設した。また、なかい里都まちC A F Eのフェイスブックやツイッターも開設し、頻繁に情報発信を行っている。情報の更新は、施設の管理運営者やスタッフが担っている。 今後） ◆情報発信の多様化 ⇒町取組や魅力を広めるためには、情報発信の媒体や主体を増やしていくことが効果的である。情報発信を行う主体の発掘や情報提供等の活動支援を行っていく。						

プチ田舎だけど便利なまち定住支援事業						
企業との連携により、各家庭や事業所にインターネットを整備することで、情報インフラの充実による里山環境に囲まれた在宅勤務や週末移住などのライフスタイルを提案し、定住を促進する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
インターネット接続率	— 県：86.1%	80%	82.2%	A	R1	実績値は町民アンケートより算出
成果） ◆町内のインターネット環境は整備されており、インターネット接続率は目標値を上回った。 ◆町外の移住相談ブースに出展し、移住希望者のライフスタイルに応じて、町の紹介を行った。移住希望者と実際に中井町に移住した町民との意見交換ができる場を創出し、当町での生活がリアルに想像できるように働きかけた。加えて、役場企画課に移住相談窓口を設置し、当町への移住を検討している方に対して、オーダーメイド型で町内の施設等を案内する取組を開始した。 今後） ◆多様なライフスタイルに対応する環境づくり ⇒町内企業と協力して、最先端の通信システムを活用した連携事業の展開などを促進し、ライフスタイルの多様化に対応できる環境づくりを進めていく。						

基本的戦略3「里都まち子育て応援戦略」

＜基本目標＞

身近な自然と温かい地域コミュニティが中井町にはある。その特性をいかすとともに、安心して子どもを産み育てるために経済的支援を行うことにより、合計特殊出生率をあげ、子どもたちを増やす。

■ 数値目標

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
出生数	43人／年	61人／年	45人	B	R1	H28:35人 H29:42人 H30:36人

【プロジェクト1】里都まちネウボラプロジェクト

- 次代を担う子どもの成長と子育て家庭の経済的負担、妊娠・出産・子育てに対する包括的支援を行うなど、子育てファミリー世帯が、安心して子どもを産み育てることができるように妊娠・出産から子育てまでの切れ目のない支援を行う。
- 子育て環境を充実するために、子育て世代の多様な雇用環境づくりを促す。

保育料・給食費助成事業

安心して子どもを産み育てることができるように、町内の子どもの保育料助成と学校給食費の補助により、次代を担う子どもの成長と子育て家庭の経済的負担の軽減を図る。

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
こども園、保育園、幼稚園の園児の増加数	203人	+3人 (園児数206人)	-11人 (192人)	B	R1	H28:200人 H29:197人 H30:188人
小中学校児童生徒の転校の減少数	6人	-3人 (転校3人)	+4人 (10人)	B	R1	H28:13人 H29:5人 H30:9人
出生数の増加数	43人	+5人 (出生数48人)	+2人 (45人)	B	R1	H28:35人 H29:42人 H30:36人

成果） ◆こども園、保育園、幼稚園の保育料を一人当たり年額5,000円助成した。また、小学生の給食費を一人当たり月額300円、中学生の給食費を一人当たり月額400円助成した。子育て家庭の経済的負担軽減を図り、保護者からは好評であった。

今後） ◆子育て家庭の経済的負担軽減の継続

⇒令和元年10月より、保育料の無償化が始まったものの、全ての園児が無償化の対象ではなく、当町独自の支援の継続と拡充に取り組む。また、学校給食費について、一部補助にとどまらず、無償化を目指す。引き続き子育て家庭の経済的負担軽減を図っていく。

切れ目のない相談・情報発信事業						
子育て支援に係る情報や各種制度等を取りまとめたハンドブックを作成・提供し、子育て相談を継続して実施する。 また、関係機関と連携した総合的な相談・支援を行う場として「なかいネウボラ」を設置し、切れ目のない子育て支援を実現する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
ネウボラ設置数	0か所	1か所	1か所	A	R1	
ネウボラ利用者数	0人	800人／年	1,195人	A	R1	
成果） ◆健診等の情報を掲載した健康づくりカレンダーを配布した。子育て世帯向けの支援制度を集約したチラシを作成し、町外の方にも支援制度を周知した。また、町のホームページ上で、子育てに関する情報を集約した「子育て応援ページ」を新設するなど、子育て世代が情報を入手しやすくなるように取り組んだ。 ◆安心して出産を迎え子育てができるように、気軽に悩みを相談できる環境を整え、平成29年8月に「里都まち♡なかいネウボラ」を開設し、切れ目のない子育て支援に取り組んだ。 今後） ◆切れ目のないきめ細かな子育て支援の継続 ⇒妊婦全員に対しての母子保健コーディネーターによる面接、保健指導を実施し、妊娠早期からの関係づくりに努め、孤立しない子育て環境を整備する。また、相談しやすい体制を維持し、支援が必要と思われる妊婦の早期把握と支援に取り組んでいく。						

里都まち子ども居場所づくり事業						
小学生等を対象に、土日、放課後等に、多様なスポーツに親しんだり、社会体験をしたりするプログラムを大学、企業、町民と連携して実施し、子どもの居場所づくりを実現する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
子ども居場所づくりプログラム数	4回／月	6回／月	25回	A	R1	
成果） ◆幼児、小学生及び中学生を対象に「なかいっ子学びの場・土曜学習」を実施した。親子で参加する幼児の英語クラス、小中学生は英語、国語、算数・数学のクラスがあり、楽しみながら学習できる場を創出した。 ◆町内の公共施設や会館を活用して、民間団体により放課後に宿題や遊びを行う場の提供や、コミュニティ食堂の実施などの取組も行われ、子どもの居場所づくりが進んだ。 今後） ◆多様な子どもの居場所づくりに向けた支援 ⇒子どもの居場所づくりに向けた民間団体の積極的な活動を支援し、既存の取組が継続できるように応援するとともに、新しい取組が生まれていくように協力していく。						

多様な雇用形態の創出支援事業						
子育て環境の充実のために、地元企業への働きかけなどをつうじて、子育て世代の多様な雇用環境を提案し実現していく。 これにより、企業イメージの向上とともに子育て世代の町内への転入増加を目指す。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
多様な雇用形態実施企業数	0社	1社	5社	A	R1	
成果） ◆町内企業へ多様な雇用形態の創出について働きかけた。自社努力で、積極的に働き方改革に取り組む企業が多い。 今後） ◆多様な雇用形態の創出に向けた連携 ⇒柔軟な雇用形態の創出を実現するための体制・環境整備等には、時間や経費等がかかり、町としての関わり方も難しいが、そのような中でも多様な雇用形態を実現している企業について、町から積極的に情報発信するなど、町内外にアピールしていく仕組みも検討する。						

【プロジェクト2】里都まちふるさと回帰プロジェクト

- 町外へ転出した若年層を対象に、三世代同居・隣居・近居の支援や連絡確保など、Uターンのきっかけづくりを行い、ふるさと中井町への回帰を実現する。
- 就職、進学、結婚等を契機に一度中井町を転出した若者を対象に「ふるさと回帰イベント」を実施するなど、結婚やUターンのきっかけづくりを行う。

三世代家族推進事業						
町内における三世代同居等を推進することで、子どもを安心して産み育てられ、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境をつくるため、住宅の購入、増改築・リフォーム等を行う方に、必要な費用の一部を支援する。 また、町内の空き家情報の提供やマッチングも併せて実施する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
三世代同居等推進事業助成件数	0件	3件／年	5件	A	R1	
成果） ◆三世代同居などに要する住宅取得費及び住宅改修費の一部を補助する「三世代同居等推進事業補助金制度」を平成30年度に創設した。多世代で暮らす世帯の増加に寄与した。 ◆売却・賃貸を希望する空き家を登録し、空き家を活用したい方に情報を提供してマッチングを行う「空き家バンク制度」を平成29年度から開始した。これまでに3件の空き家が登録され、そのうち2件が成約となった。 今後） ◆空き家の有効活用の促進 ⇒空き家バンクへの登録物件を増やすこと、空き家の適正な管理・有効活用について考えていただくきっかけをつくることを目的に、空き家所有者に対し、空き家バンク制度等に関するチラシを送付した。それにより、空き家バンクへの登録の相談及び利用の相談は増えたが、相談でとどまるケースが多かった。制度の周知等を継続するとともに、県西版や全国版の空き家バンク制度との連携も図り、町民のネットワークの活用や、他地域の優良事例などを参考に、空き家の有効活用を図る。						

里都まち暮らし応援事業						
町外に転出した若年層の町内へのＵターンのきっかけづくりを行うために、転出しても中井町との関係が切れないように応援する。 また、ふるさと回帰イベントを実施するなど、ふるさと中井町への回帰を実現する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
里都まち暮らし応援者数	0人	10人	—	C	R1	
成果） ◆民間団体によるふるさと回帰イベントが実施された。 ◆町の成人式の際に、町のグッズや情報の提供等を通じて、若年層の故郷への愛着心の醸成を図った。 今後） ◆里都まち暮らし応援者の創出 ⇒町のプロモーション冊子・動画の作製に携わった方、新規就農で転入された方など、各施策を展開していく中で、新たな人材の発掘が進んだ。その方々が町外の移住相談イベントへの参加、新規就農希望者への相談対応などに協力することで、移住者増加のきっかけづくりができた。本事業は、町外に転出した若年層がターゲットになる。しかし、それ以外の方へのアプローチも行うことで、当町に転入する若年層の増加が期待でき、基本目標にある出生数の増加に結び付く可能性も上がる。したがって、里都まち暮らし応援者が今後増えていき、Ｕターンの増加、出生数の増加が進むように、引き続き里都まち暮らし応援事業の制度設計を進める。						

基本的戦略4 「里都まち総合プロデュース戦略」

＜基本目標＞

中井町は、里山などの自然環境、東名高速道路秦野中井インターチェンジ、県道71号秦野二宮線などの広域幹線道路の良さ、隣接する自治体にある医療機関や商業施設などの利便性を有している。また、住宅地としては身近に豊かな自然があり、ゆったりとした生活をする事ができる。この環境の良さを一層際立たせるとともに、鉄道駅がない弱点を克服するため、利便性と知名度を向上させる。

■ 数値目標

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
利便性が向上したと感じている町民	62%	80%	68.6%	B	R1	実績値は町民アンケートより算出
中井町を推奨している町民	41%	60%	43.4%	B	R1	実績値は町民アンケートより算出

【プロジェクト1】里都まちプロモーションプロジェクト

- 中井町の魅力と強みなどをいかしたシティセールスに向けたシティプロモーションを展開する。
- 交流人口が増加するほど暮らしの質も向上する好循環を生み出す。

里都まちプロモーション事業

中井町ならではの魅力をいかし、知名度の向上・組合せによる展開・マグネット効果による集客力の向上などを総合的にプロデュースするシティプロモーションを大学・企業と連携しながら実施する。

指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
中井町を推奨している町民	41%	60%	43.4%	B	R1	実績値は町民アンケートより算出

成果） ◆町民が町の魅力を発信するプロモーション動画・冊子、町のオリジナルソング、当町の魅力を象徴する「里都まち」という言葉や町の公式キャラクター「なかまる」を使用したノベルティ等を活用してのPRなどにより、町の知名度向上や中井町への愛着の醸成を図った。
◆近隣大学の学生に、当町の地域めぐりをしてもらうことで魅力の再発見をした。大学の学園祭で町のブースを出展して、ブランド品の提供と学生とともに町のPRを行った。また、町内企業の自社イベントでのブランド品の販売、里都まち交流拠点を活用した地元企業によるイベントが行われた。加えて、町民を中心に町に関わる方でワークショップを行い、プロモーションのターゲットとブランドメッセージの検討を行った。

今後） ◆より効果的な事業の展開
⇒シティプロモーション戦略指針を策定し、里都まちプロモーション事業の目標の明確化、ターゲットの設定等を行い、戦略的に施策を展開してきたが、町への愛着度やまちづくりに参画する意欲の向上を目指し、戦略指針に基づいた「アクションプラン」を策定して、より効果的な事業展開を図る。

里都まち暮らしの質向上事業						
中井町での暮らしの魅力を町民自身が再発見する中で、生活の質を向上させる。 こうした取組をつうじて、新たな魅力を創出するとともに、里都まちの空間的魅力を再生し、生活実態に根ざした魅力向上を町民とともに創出する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
利便性が向上したと感じている町民	62%	80%	68.6%	B	R1	実績値は町民アンケートより算出
成果） ◆里都まちプロモーション事業などの町民ワークショップをとおして、町の特徴について考える機会を作り、その際に町のプロモーションコンテンツやノベルティ等を紹介することで、町民が町の強み・魅力を再認識する機会を創出した。 ◆里都まち交流拠点を整備したことで、人気スポットである中井中央公園の魅力・利便性が向上した。当該拠点で開催されるワークショップなどのイベント、自治会や地元企業の懇親会、地元食材を使ったブランド品の販売など、新しい活動が次々と生まれ、暮らしの豊かさが増した。 今後） ◆新しい活動の創出 ⇒新しい活動が生まれることで、様々な人との交流が生まれ、町が盛り上がっていく。それにより、暮らしへの満足度も増していく好循環が生まれる。町民等が活動できるフィールドを提供するとともに、町民等の自主的な活動を応援していく。						

里都まち好循環のまち事業						
各プロジェクトが好循環を生み出し、持続的な展開を運動的に継続していくことを目指す。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
取材件数	0件	12件／年	34件	A	R1	
成果） ◆スポーツとブランドがコラボしたイベントの創出、未病（健康）に絡めたスポーツの実施、里都まち交流拠点を中心拠点としたプロジェクト及び既存事業の実施など、横断的な取組を進めることで、より効果的な事業展開を図った。 ◆新しい魅力を生み出すことで、メディアからの取材が増えた。また、メディアからの働きかけを待つのではなく、メディアに対して能動的に情報提供を行い、様々な媒体を活用した情報発信に努めた。 今後） ◆魅力創出と積極的な情報発信 メディアからの取材を含めて、情報発信の機会を増やしていくためには、埋もれている魅力の再発掘や新しい魅力の創出が有効になる。それらに引き続き取り組むとともに、積極的かつ効果的な情報発信に努める。						

【プロジェクト2】里都まちコンパクトプロジェクト

- 役場周辺の中心拠点と近隣生活圏での小さな拠点を整備・創出する。
- 拠点と拠点、町内外を連絡する交通ネットワークを形成する。

中心拠点・小さな拠点形成事業						
「中井中央公園」を含めた、役場周辺地区については、生活の利便性向上を図るために、バスターミナルの設置や商業施設を誘致するとともに、新たに住宅用地を設け、都心からの定住・移住を促進する。さらに、定住・移住者に対しては、後継者不足などにより耕作されていない荒廃農地を整備し貸し出すことにより、滞在型市民農園などの整備促進に努める。 また、町民協働による農家の軒先販売所、空き家等を活用したサロンなど小さな拠点を整備・創出する。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
小さな拠点形成数	0か所	2か所	—	C	R1	
成果） ◆中井中央公園に里都まち交流拠点を整備したことで、新たな活動が生まれ、交流人口の増加や賑わいが創出された。中井中央公園を含めた役場周辺地区が活性化した。 ◆民間団体による空き家を活用した活動拠点が形成され、町民等の活動・憩いの場が創出された。 今後） ◆中心拠点・小さな拠点の整備及び活性化 ⇒役場周辺地区や滞在型市民農園などの整備を引き続き検討するとともに、形成された拠点のさらなる活性化に向けて、官民の連携体制を強化する。また、新たな拠点が誕生し、定住・移住を促進できるように、中心拠点・小さな拠点形成事業の制度設計を進める。						

交通ネットワーク形成事業						
交通弱者や買い物弱者などの移動をサポートする生活交通の充実、自転車によるまちづくりの推進など、福祉・産業・環境などの総合的な観点から、町民協働のもと進めていく。						
指標	基準値（初期値）	目標値	実績値	達成度	実績値の時点	備考
オンデマンドバス利用者数	5,633人／年	7,000人／年 (H29年度末)	7,841人	A	R1	H29:8,466人 H30:7,335人
成果） ◆オンデマンドバスの運行をしていく中で、利用者や町民の声を聞きながら、バスの予約方法の変更や乗降ポイントの増設などを行い、交通弱者が生活に困らない交通ネットワークの形成を図った。 ◆運転免許証の自主返納者に対して、オンデマンドバスの回数券を交付する事業を平成30年度から開始し、オンデマンドバスを利用するきっかけづくりを行うとともに、マイカーへの依存傾向が強い当町でも、運転免許証の自主返納後も生活に困らないように取り組んだ。また、オンデマンドバスの目的や利用方法などを町の広報の特集記事として連載するなど、積極的に周知した。 ◆平成30年度にレンタサイクルのモデル事業を行い、自転車を活用した生活の可能性について検証した。また、中井中央公園を会場としたサイクルイベントの誘致や、県西地域で行われたサイクルイベントで連携するなど、自転車によるまちづくりに取り組んだ。 今後） ◆交通の利便性の向上 ⇒当町には鉄道駅がないものの、近隣の鉄道駅までは車やバスで短時間で行くことができ、町内は路線バスとオンデマンドバスにより、移動手段を確保している。車があれば、東名高速道路を利用して、1時間足らずで都心に行くことも可能であり、交通に関する強みを有している町である。そのことを町民に再認識してもらえるように働きかけ、中井町を推奨する気持ちの醸成を図る。また、町民の声を引き続き把握し、交通面でもより便利なまちづくりを進めていく。						